

キックオフレポート案の取りまとめにあたって 補足・共有すべき事項

福岡市

キックオフレポート案の取りまとめにあたって補足・共有すべき事項

— 福岡市 —

■補足いただきたい事項

「シームレスアジアの実現」に向けた九州圏の役割と対応の方向性についての議論と共有化について

■理由等説明

- 全国計画「計画部会中間とりまとめ」の中での戦略的取り組みの一つとして、各広域ブロックと東アジアの各地域との関係を深化するとともに、そのための基盤整備を進めるべきであるとして、「シームレスアジアの実現」が掲げられている

【「中間とりまとめ」の概要 抜粋】

第3 計画のねらいと戦略的取組

新たな計画においては、あらゆる世代の活躍により、その先の時代の方向を形づくる計画となるよう、以下の戦略的取組を先導的に提示していくべき。

[グローバル化や人口減少に対応する国土の形成]

多様な広域ブロックが自立的に発展する国土の形成を通じて、各広域ブロックが安定した経済成長を図りつつブロック内各地域の活力と多様性を維持していく必要がある。

第一に、東アジアの成長のダイナミズムを取り込んでいくことを目指し、各広域ブロックと東アジアの各地域との関係を深化するとともにそのための基盤整備を進めるべきである（(1)シームレスアジアの実現）。

— 略 —

(1) シームレスアジアの実現

東アジア諸国とわが国の相互依存関係はますます深まっており、これらの国々との競争関係を念頭に置きつつ、各分野での交流と連携を強化することにより、共に発展していく姿を追求していくことが求められている。

一方で、相互に陸路で結ばれた東アジアの近隣諸国が、アジアハイウェイ等の推進を通じてその結束強化を進めつつあり、海を隔てた我が国においては、東アジアにおける交通ネットワークとの連続性、互換性の確保の面で立ち後れが危惧されている。 - 4 -

これらの情勢に対応し、我が国と東アジア近隣諸国との交流・連携を支えていくためには、東アジアにおけるヒト・モノ・情報の更なる迅速かつ円滑な流れ、すなわちシームレスアジアの実現が求められる。

①東アジアネットワーク型の産業構造下における我が国産業の強化

集積を活かした新産業創出 / 科学技術によるイノベーション / ものづくり基盤の強化 等

②東アジアの交流・連携の推進

都市、環境等東アジア共通の問題解決プラットフォームの構築 / 観光立国の推進による来訪者の増加 / 人材育成・交流ネットワーク 等

③シームレスアジアを支える国土基盤の形成

東アジアにおける日帰りビジネス圏、貨物翌日配達圏、アジア・ブロードバンド環境の形成 / 広域ブロックゲートウェイの形成 / アジア諸国での交通・情報通信基盤整備政策の共有化 等

○さらに、「シームレスアジアの実現」に関連する事項として、九州圏広域地方計画・検討小委員会においても、「東アジアの玄関口としての社会基盤の整備」等が論点とされている

【九州圏広域地方計画・検討小委員会において関連する論点】

活力ある経済社会を目指す検討小委員会
 論点5「東アジアの玄関口としての社会基盤の整備」
 自立的発展を目指す検討小委員会
 論点1「東アジアにおける九州圏の自立と連携」

○九州の現状について、アジアとの関係でみると

- ・ 著しいアジアの成長の中で、
- ・ 全国との比較でみても九州はアジアとの結びつきの強まり、
- ・ 対アジア貿易量の増大 など

現にアジアとの結びつきが非常に大きくなっている

【第1回活力ある経済社会を目指す検討小委員会資料 抜粋】

1 成長著しいアジア

- ・ 日本で人口減少が続く2030年まで、中国、インド、ASEAN諸国では5～3%台後半の高い成長率で経済成長し、中国・インドの経済成長を主因として、アジア経済の世界シェアは倍増し、世界経済の50%弱を占めると見込まれている。
- ・ 2020年までは人口数世界一である中国において(韓国においても)、その後は人口減少が見込まれている。

社団法人日本経済研究センターが公表した世界経済長期予測(2007年1月)

| 国・地域名 | 年 | | | | | | 年平均成長率 | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|------|
| | 2000 | 2005 | 2020 | 2030 | 2040 | 2050 | 2001-05 | 2006-20 | 2021-30 | 2031-40 | 2041-50 | |
| GDP | 日本 | 32.7 | 34.7 | 42.4 | 47.1 | 49.9 | 49.9 | 1.2 | 1.4 | 1.0 | 0.8 | 0.9 |
| | 中国 | 49.8 | 77.3 | 173.3 | 251.8 | 304.2 | 333.9 | 9.3 | 8.5 | 3.8 | 1.9 | 0.9 |
| | 韓国 | 7.8 | 9.4 | 15.8 | 19.8 | 20.1 | 20.2 | 4.4 | 2.4 | 1.7 | 0.9 | 0.1 |
| | インド | 24.5 | 33.8 | 70.7 | 103.0 | 144.0 | 191.2 | 6.6 | 5.0 | 3.8 | 3.4 | 2.9 |
| | ASEAN | 17.7 | 22.1 | 28.7 | 54.8 | 72.9 | 92.4 | 4.5 | 2.9 | 2.5 | 2.9 | 2.4 |
| | EU | 92.9 | 110.9 | 107.5 | 214.1 | 271.7 | 329.6 | 2.9 | 2.8 | 2.9 | 2.4 | 2.3 |
| 一人当たりGDP | 日本 | 102.6 | 111.8 | 145.2 | 163.1 | 181.1 | 198.9 | 1.2 | 1.0 | 1.2 | 1.1 | 0.9 |
| | 中国 | 25.8 | 27.1 | 34.5 | 40.9 | 47.4 | 53.1 | 1.0 | 1.6 | 1.7 | 1.5 | 1.1 |
| | 韓国 | 3.9 | 5.0 | 12.2 | 17.0 | 22.4 | 26.4 | 8.4 | 5.1 | 3.0 | 2.3 | 1.7 |
| | インド | 16.0 | 19.7 | 32.2 | 39.5 | 45.9 | 52.0 | 3.9 | 3.3 | 2.1 | 1.5 | 1.2 |
| | ASEAN | 2.4 | 3.0 | 5.2 | 8.0 | 11.0 | 14.1 | 4.9 | 3.6 | 2.8 | 2.6 | 2.3 |
| | EU | 33.7 | 37.2 | 49.5 | 59.3 | 71.0 | 80.0 | 2.0 | 1.9 | 1.8 | 1.9 | 1.8 |
| 人口(百万人) | 日本 | 22.2 | 24.8 | 21.9 | 20.3 | 41.4 | 47.2 | 1.4 | 1.7 | 1.2 | 1.3 | 1.2 |
| | 中国 | 12.7 | 12.8 | 12.3 | 11.5 | 10.5 | 9.4 | 0.1 | -0.2 | -0.7 | -0.9 | -1.1 |
| | 韓国 | 127.4 | 132.0 | 141.7 | 141.1 | 135.0 | 126.2 | 0.0 | 0.4 | 0.0 | -0.4 | -0.7 |
| | インド | 4.7 | 4.0 | 4.9 | 4.7 | 4.4 | 3.9 | 0.4 | 0.1 | -0.3 | -0.7 | -1.1 |
| | ASEAN | 102.1 | 110.9 | 135.9 | 150.9 | 161.6 | 173.3 | 1.7 | 1.4 | 1.1 | 0.9 | 0.6 |
| | EU | 45.2 | 40.5 | 57.2 | 61.6 | 64.4 | 65.4 | 1.4 | 1.1 | 0.7 | 0.4 | 0.2 |

(注) GDP(一人当たりGDP)は2000年購買力平価ドル基準、単位は平価ドル(千ドル)、成長率は期間平均、GDPの2005年は推計値を実績値として一部利用、人口は米国のみ国連予測、AGCANは、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムの6カ国、EUは、EU加盟国からスロベニア、エストニア、リトアニア、キプロス、マルタ、ブルガリア、ルーマニアを除いた19カ国

(資料) 内閣府『国民経済計算年報』、総務省『国勢調査』、World Bank, World Development Indicators, United Nations, World Population Prospects: The 2004 Revision, 各国統計

○ アジアとの結びつきの強さ

- 九州は、アジア度(アジアとの結びつきの度合い)は、全国よりも相対的に強いとされる。定期国際航空路線に占めるアジアとのネットワークのシェアや、外国人入国者数に占めるアジア諸国からの入国者数のシェアにおいて、その傾向は顕著である。
- 東アジア地域の著しい経済発展や、ASEANや韓国とのEPA/FTA(経済連携協定・自由貿易協定)が締結されることで、ビジネス圏として一体化するアジアと九州間の人とモノの交流はますます活発化することが予想される。

【テーマ】アジアの拡大

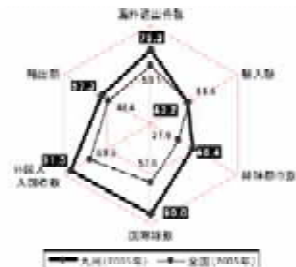


東アジア日韓リビジネス圏
日本及び外国から相手国に出張をして、4時間以上相手国の都市に滞在可能である範囲。

貨物翌日配達圏
日本及び外国から朝6時に貨物を出し、相手国に翌日18時に到着できる範囲。

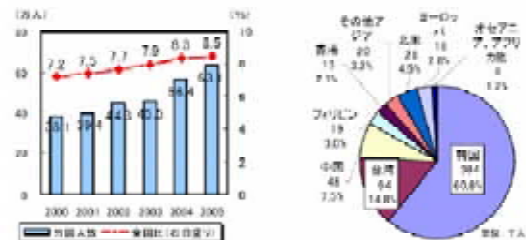
出典:「第9回国土審議会(第19号)資料」国土交通省

アジア度(アジアとの結びつきの度合い)が強い九州



アジア度は、アジアとの関係が全体に占める構成比、インドおよび東南アジアは含まれない。
例えば、輸出額のアジア度は、アジア向け輸出額/全輸出額となる。

九州で入国した外国人数の推移と2005年の国別シェア

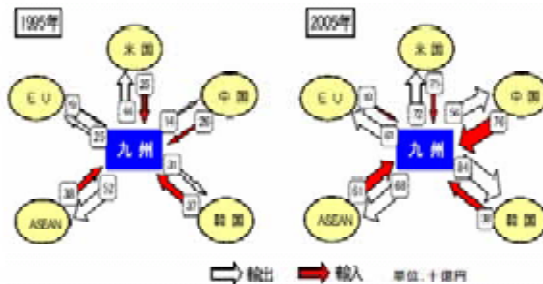


出典:「九州アジア国際化レポート2006」九州経済産業局、「入国者増統計」読売新聞などより作成

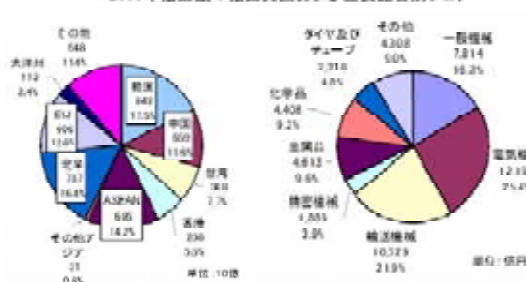
○ 東アジア・東南アジアとの貿易量の増大

- 九州の貿易額は、'93年に出超(輸出>輸入)に転じている。
- 対東アジア・東南アジアとの貿易は、増加する対米国・EUとの貿易量を上回る伸びで増加している。

北米・西欧を上回る伸び増加する九州の対アジア貿易額

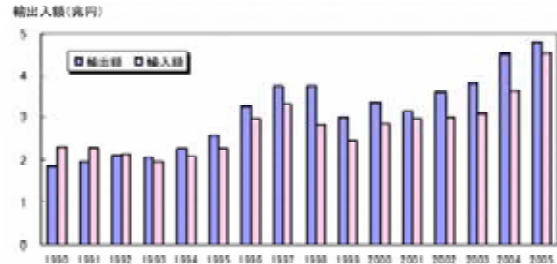


2005年輸出額の輸出先国および主要品目別シェア



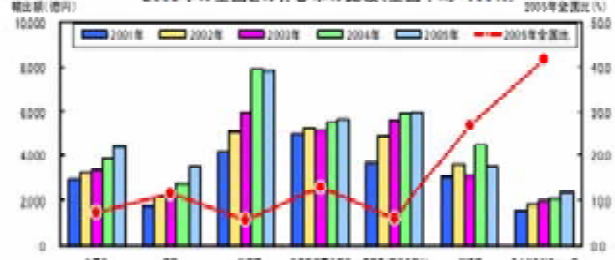
出典はすべて「九州アジア国際化レポート2006」九州経済産業局、「貿易統計」財務省より作成

出超傾向に転じた九州の貿易(輸出入)額



九州の主な輸出品の輸出額の推移と

2005年の全国との伸び率の比較(全国平均+100%)



出典はすべて「九州アジア国際化レポート2006」九州経済産業局、「貿易統計」財務省より作成

○このように、東アジアの成長のダイナミズムを取り込んでいくことは、今後の九州圏の持続的な発展を図っていく上で重要な検討課題

○以上のことから、今後の検討小委員会において、「シームレスアジアの実現」を図る上での九州圏の役割について、九州圏をとりまく状況や九州圏内の各地域の特性等を踏まえながらご議論いただくとともに、アジアの中で九州圏が競争力を確保しながら一体となって成長していくための対応の方向性についてご議論いただきたい